

基本計画 第4章

6 産業振興

農業、商業、工業、観光などバランスのとれた産業振興を図り、にぎわいと活力のあるまちづくりを進めます。

基本施策 28	農業	166
基本施策 29	商工業	168
基本施策 30	観光	170

⑥ 産業振興 基本施策 28 農業

目指す姿 目標値

農業の担い手の育成などにより農業経営の安定化が図られています。
食の安全・安心や食育^{*}に対する市民の意識向上が図られ、地産地消^{*}が推進されています。農業への関心が高まり、市民が農業にふれあう場所や実習する機会が充実しています。

指標	現状値	目標値	
		平成 25 年	平成 30 年
認定農業者 [*] 数	19人	22人	25人
家庭菜園を行っている、または行いたいと考えている市民の割合	52.2%	58%	63%
身近な地域で採れた農産物を買うように心がけている市民の割合	58.2%	65%	80%



基本施策の展開方向

1 効率的・安定的な農業経営の促進を図る 5-3

- 農用地区域の農地を中心に認定農業者などに利用集積を図るとともに、認定農業者などが行う規模拡大に必要な融資への助成を行うなど、担い手の育成支援を図ります。

2 農地の保全に努める 3-3

- 洪水防止機能や環境保全などの農地が持つ多面的な機能や役割に対する市民の理解を促し、都市機能と調和しつつ、優良農地の保全に努めます。
- 菜の花・レンゲなどの景観形成作物の作付けを水田に実施し、自然と調和のとれたまちづくりを進めます。

3 農業にふれあう場の整備を進める 3-3 4-3

- 食育と環境学習の場である農業公園や、農業体験農園など市民が農業を実習できる場所の整備により、市民の農業に対する親しみや興味を育て、農業の担い手の育成を行います。

現況・課題

本市の農業は、米作を中心に展開されていますが、そのほとんどが第2種兼業農家です。また、農業従事者の高齢化や後継者不足などにより、農地の宅地化や耕作放棄地の増加が急激に進んでおり、農業の衰退化が懸念されています。このため、農業従事者が農業に対して魅力とやりがいを感じられるように、効率的・安定的な農業経営を促進するための支援を行っていくとともに農地の保全に努める必要があります。

一方で、市民においては団塊の世代が大量に退職を迎えるなか、農業を学びながら実習することができる場所や機会に対するニーズが高くなっています。このため、農家と消費者がふれあえる場の提供や、高齢者の生きがいづくりとしての農業振興を図っていく必要があります。

また、近年食の安全性に対する意識の高まりを受け、身近な地元で生産された安全・安心な農産物を供給できるよう地産地消を推進し、良好な農業生産環境を整備・保全するなど、地域に密着した農業振興を図ることが必要となっています。

関連計画・条例等

- 小牧農業振興地域整備計画（昭和 50 年策定）
- 農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想（平成 18 年 10 月策定）
- 小牧市農業公園整備基本構想（平成 20 年 3 月策定）
- 小牧市農業公園整備基本計画（平成 21 年 3 月策定）
- 小牧市食育推進計画（平成 21 年 3 月策定）

関連データ

・ 専業・兼業別農家数及び経営耕作地面積 ・ 農業産出額



協働の考え方

農業にふれあう場の整備の際には、企画立案の段階から農業従事者や市民、市民活動団体、農協など各種団体の意見を積極的に取り入れ、各主体の協働^{*}による計画及び整備を進めます。また、地産地消及び食育の推進に関しては、生産者と消費者とをつなぐパイプ役を市民活動団体に担っていただき、学校から各家庭、子どもから高齢者まで、幅広い展開を図ります。

4 地産地消の環境づくりを進める 1-3 4-2 5-3

- 地域で生産された農産物を地域内で消費拡大するため、地産地消を推進し安全・安心な食の確保に努めます。
- 生産者と消費者の交流を促進し、食文化の継承など食育を進めます。
- 市内の特色ある農産物や加工品のPRに努めます。

5 農業用施設の整備を進める 1-1 5-3

- 食糧生産に不可欠な水を効率的・安定的に確保するため、取水堰などかんがい用施設の整備を行います。
- 農業用水への生活排水の流入を防ぐため、用排水路分離の整備を推進します。

⑥ 産業振興 基本施策 29 商工業

目指す姿

目標値

魅力ある商店街づくりや積極的な企業誘致、既存産業の近代化・高度化などの推進により、社会経済を支える商工業の振興が図られています。

職業相談などの雇用対策体制が充実しています。また、市内事業所の就業環境が向上し、勤労者が健康でいきいきと働いています。

指標	現状値	目標値	
		平成 25 年	平成 30 年
年間商品販売額	7,091 億円	7,304 億円	7,481 億円
製造品出荷額等の額（従業者 4 人以上の事業所）	1兆 2,223 億円	1兆 2,529 億円	1兆 2,834 億円
製造業の事業所における従業者数（従業者 4 人以上の事業所）	35,427 人	35,900 人	36,400 人



基本施策の展開方向

1 商店街を再生する

3-3 5-3

- にぎわい創出事業の実施などにより、まちの活性化を図り商店街の再生に努めます。
- 商業団体などへの事業費の補助などにより消費者ニーズに対応した個性と魅力ある商店街づくりを支援します。

2 工業用地の整備と企業誘致を推進する

5-3

- 周辺環境に配慮した工業用地の整備を推進するとともに、優良企業の誘導・誘致を積極的に行います。

3 既存商工業の近代化・高度化を推進する

5-1 5-3

- 中小企業の経営の安定化・合理化を進めるため、中小企業相談所の運営費の助成、信用保証料の助成及び金融機関に融資資金の預託を行います。
- 品質及び環境 ISO の新規認証取得に対し支援を行うなど企業経営の改善や環境に配慮した取組みを促進します。

現況・課題

本市の商業は、年間商品販売額は県内でも上位に位置していますが、モータリゼーションの進行や大型店舗への顧客の集中などにより、既存商店街が衰退しています。しかし、商店街単独での活性化は困難な状況にあるため、今後は、市民と商店街、関係団体との協働*でまちの活性化を図り、既存商店街の再生に取り組むとともに、大型店舗の立地に対しては、地域商業の活性化・共存共栄が図られるよう努める必要があります。

本市の工業は、名古屋市の近郊という立地条件や広域交通条件に恵まれ、製造業を中心に多種多様な優良企業が立地し、雇用の安定や健全財政に大きく寄与しています。しかし、地方分権*の時代においては、各自治体の更なる自主・自立が求められており、今後も引き続き周辺環境に配慮した工業用地の整備を行い、企業誘致を進めるとともに、既存工業の近代化・高度化を図っていく必要があります。

また、職業相談など求職者に対する情報提供や、勤労者が健康で働きがいのある就業環境の整備に対する支援など、雇用対策・勤労者福祉を進めていく必要があります。

関連計画・条例等

- 小牧市東部地区開発基本計画（平成元年策定、平成 10 年見直し）
- 小牧市東部地区産業立地開発基本構想（平成 13 年策定）

関連データ

- ・小牧市の商業（商店数、従業者数、年間商品販売額）
- ・小牧市の工業（事業所数、従業者数、製造品出荷額等）

協働の考え方



既存商店街の再生にあたっては、商店街単独での活性化は困難であるため、市民と商店街、関係団体、行政がお互いの役割を明確にしながら協働*し、魅力とにぎわいのある既存商店街の再生に取り組めます。

4 雇用対策・勤労者福祉を充実する

2-3 5-3

- 商工会議所や公共職業安定所と連携して就職情報を提供するとともに、職業支援室を配置し、求職者に対し職業情報の提供や相談、指導などを行います。
- 勤労者が働きがいや生きがいを実感できるような魅力ある就業環境を整備するよう勤労者と企業の取組みを支援します。
- 女性や高齢者、障がい者の雇用機会の拡充や、外国人労働者が安心して働ける雇用環境の整備が進むよう企業に対して啓発を行います。

⑥ 産業振興 基本施策 30 観光

目指す姿
目標値

観光協会を中心に市民や企業との連携により、既存の観光資源の活用や本市の特性を活かした新しい観光資源の掘り起こしなど、小牧らしい観光振興が図られています。また、観光の振興により小牧山*をはじめとする観光資源とともに本市の魅力や知名度が向上しています。

指標	現状値	目標値	
		平成 25 年	平成 30 年
観光協会推奨品数	47 品	50 品	53 品
観光協会会員数	99 人	110 人	120 人
小牧の特産品、名産品を知っている市民の割合	47.0%	52%	57%

現況・課題

本市には、小牧山や田縣神社の豊年祭*をはじめとする歴史・文化的資源や市民四季の森、温水プール、スポーツ公園などの余暇を楽しむレクリエーション施設があり、市内外から多くの人を訪れています。このため、これら既存の観光資源の適切な維持管理・活用・PRを図るとともに、更に魅力あるものとするために市内及び周辺市町における観光資源のネットワーク化を図る必要があります。

また、本市には工業都市としてさまざまな産業が集積しており、こうした資源を活かした産業面からの観光資源の掘り起こしに努めるなど新しい取組みも必要です。

本市が観光により得ている経済効果はあまり大きくはありませんが、観光の振興には、経済効果の他にも市の魅力や知名度の向上、人と人との交流、自分の住んでいるまちを誇りに思う意識の高揚などの効果が期待できます。このため、観光協会の組織体制の強化を図るとともに市民や企業との連携を強めるなど更に観光推進体制を整えていく必要があります。

関連データ

・歴史館の入館者数 ・温水プールとスポーツ公園の利用者数

協働の考え方



現在、行政主導で行っている観光施策を、観光協会が自主的に実施していくとともに、催事の際には、市民活動団体や企業の協力を得ながら実施し、各主体の協働*による観光振興を図ります。

基本施策の展開方向

1 観光資源を活用する

3-1

5-3

- 本市のシンボルで歴史ある小牧山を活用した各種イベントを行います。
- 本市の産業を活用した産業観光*の掘り起こしに努めます。
- 地域に根付いた伝統ある祭りなど歴史・文化的資源を活用します。
- 温水プールやスポーツ公園、市民四季の森など余暇を楽しむレクリエーション施設を活用します。
- 小牧らしい特産品や名産品の掘り起こしに努めます。
- 観光ルートの開発など、市内観光資源のネットワーク化を図ります。

2 観光推進体制を強化する

3-1

5-3

- 観光協会の育成を図るとともに、市内の商店街、市民活動団体及び地域住民との連携を密にし、観光推進体制を強化します。
- インターネットや案内看板など、観光の情報提供やPRを強化します。

3 自然環境を活用する

3-1

3-3

- 東部にある東海自然歩道や兒の森などについて、自然に親しみ、余暇を楽しめるゾーンとして活用します。

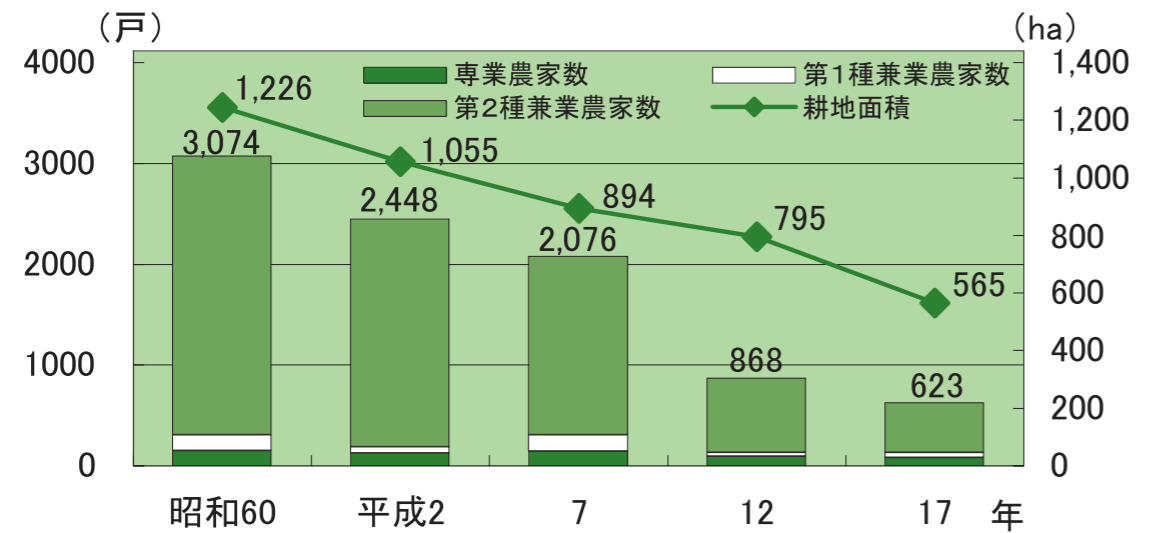


関連データ一覧

⑥ 産業振興

基本施策28 農業

■ 専業・兼業別農家数及び経営耕地面積

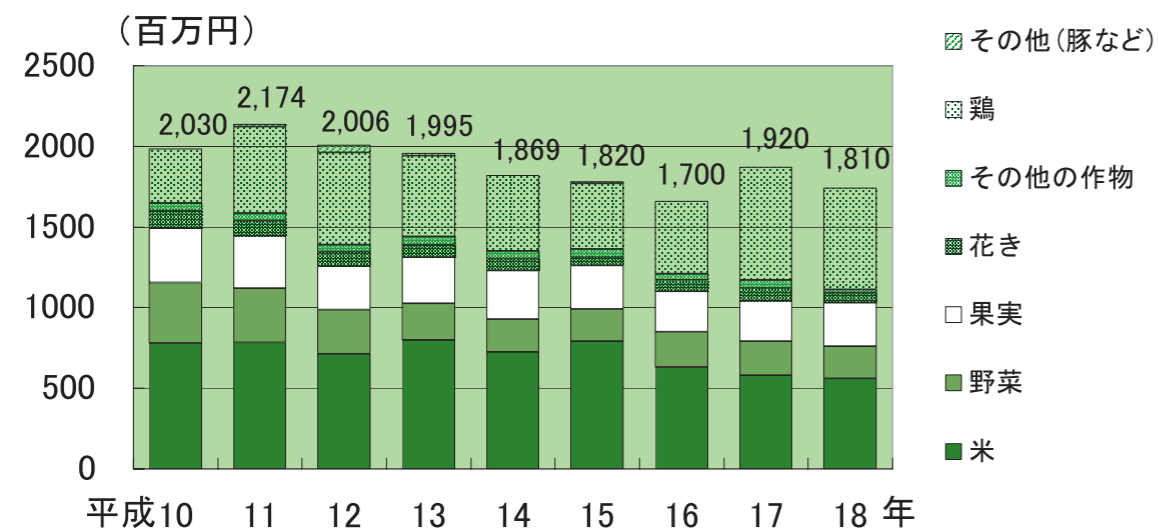


※各年2月1日現在

※平成12、17年の農家数は、販売農家のみの数値
※平成17年の耕地面積は、農業経営体のうち家族経営のみの数値

資料 農林業センサス

■ 農業産出額

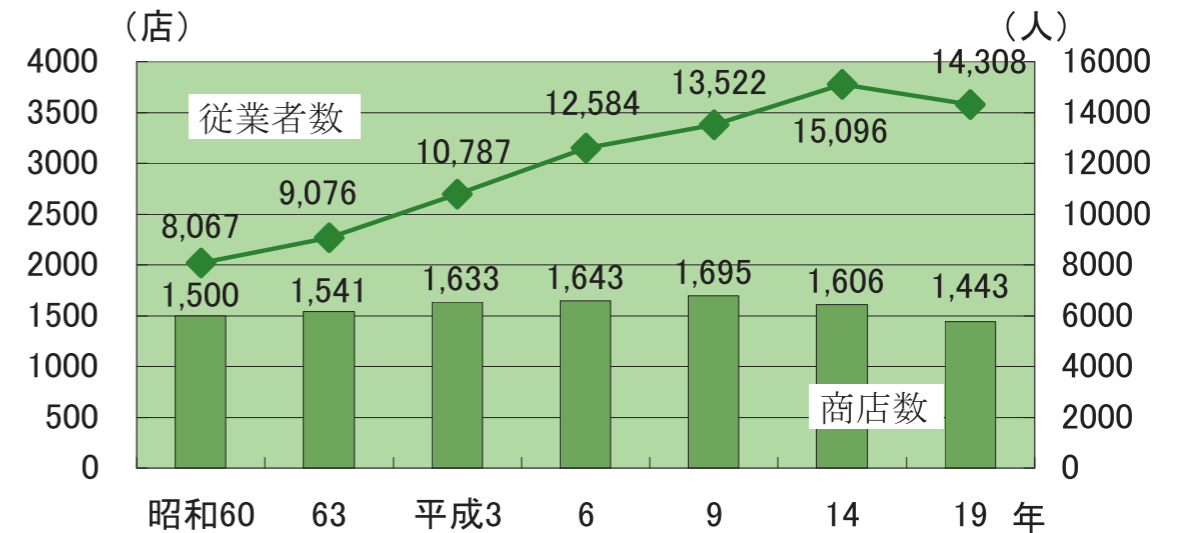


資料 農政課

⑥ 産業振興

基本施策29 商工業

■ 小牧市の商業（商店数、従業者数）

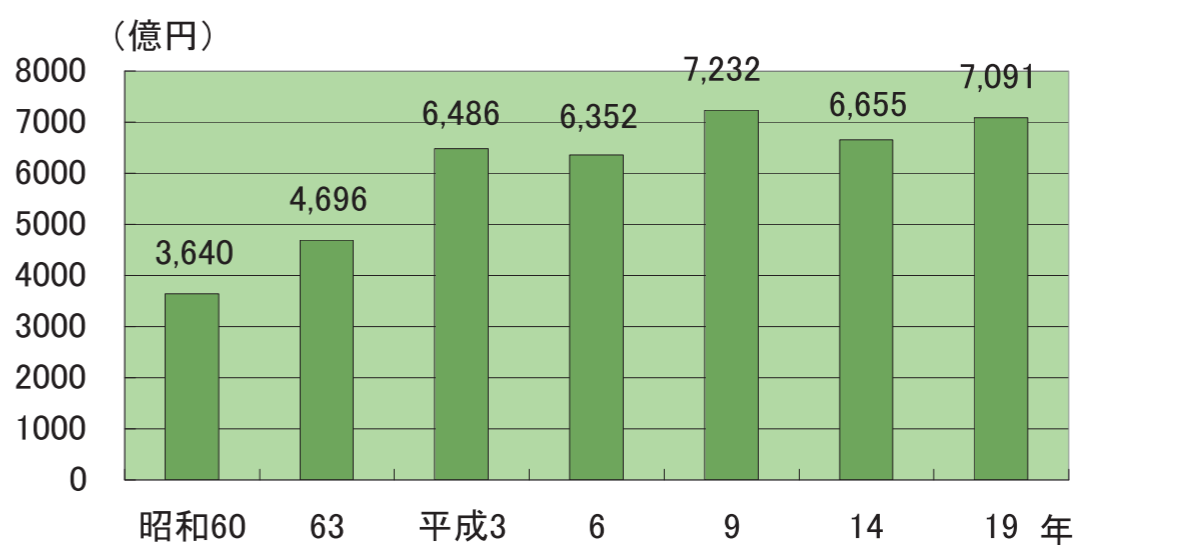


※各年6月1日現在

(平成19年は速報値)

資料 商業統計

■ 小牧市の商業（年間商品販売額）



(平成19年は速報値)

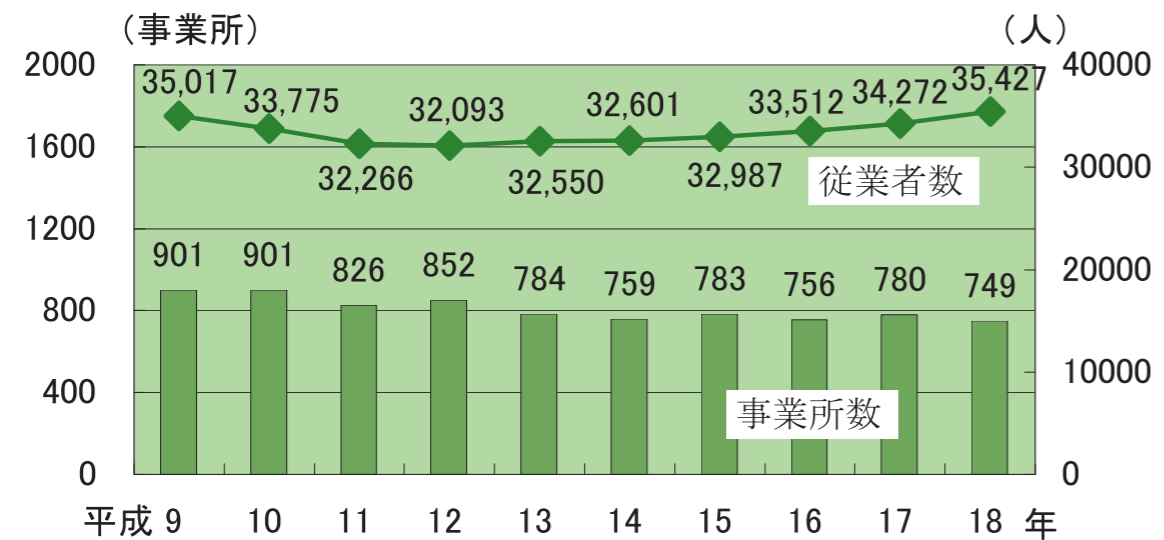
資料 商業統計

関連データ一覧

⑥ 産業振興

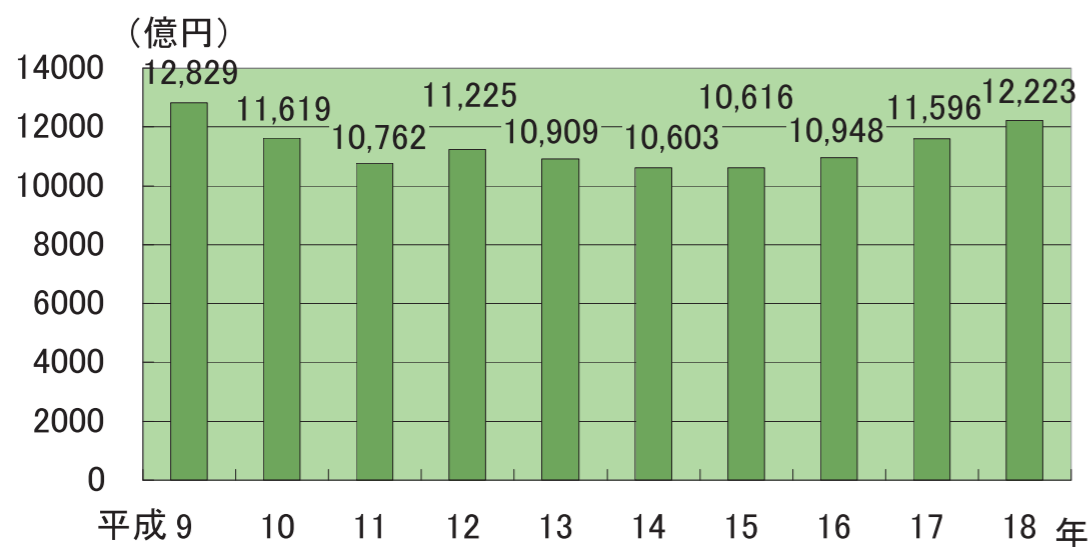
基本施策 29 商工業

■小牧市の工業（事業所数、従業者数）



※各年12月31日現在
資料 工業統計

■小牧市の工業（製造品出荷額等）

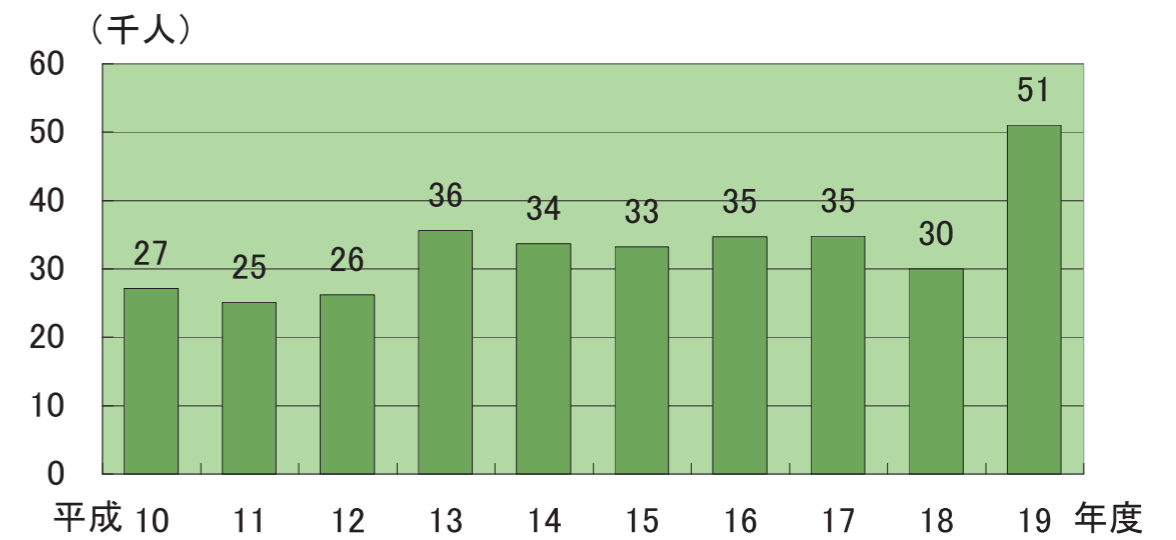


資料 工業統計

⑥ 産業振興

基本施策 30 観光

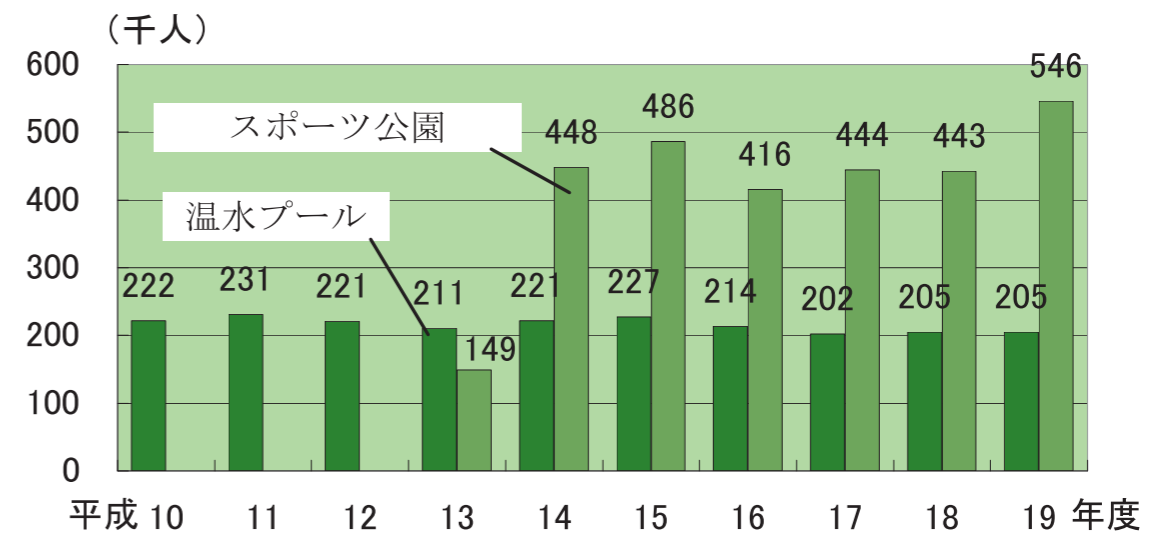
■歴史館の入館者数



※平成19年3月リニューアルオープン

資料 文化振興課

■温水プールとスポーツ公園の利用者数



資料 体育課